

皇海山(すかいさん) (2144m)

期 日 2015年9月21日(月)～22日(火)

参加者 石川 誠 佳子

行 程

9/21日 横須賀～東北道岩舟 jc～水上 ic～谷川岳ロープウエー駐車場～片品村花咲温泉(泊)

シルバーウィークとのことで交通渋滞は覚悟の上で皇海山を目指す。本来なら栃木県側から登山するのが正規の様だが、山中 1泊とのことで群馬県側から登山することとした。

渋滞を避けながら外環道から東北道経由岩舟 jc から高崎 jc、そして時間を勘案しながら土合に入る。一の倉に入っている金井パーティーに出会いからコールでもかけようと思っていたが、谷川岳ロープウエーの駅に着いたのが、午後2時頃往復すると間に合わないの、とりあえず、谷川岳山岳資料館にお邪魔する。丁度八木原館長も居られ、しばし歓談全盛期に活躍された方々の写真と共に昔



(八木原館長(現日山協会長)さんと)



懐かしい登攀用具などの展示品を見学する。ネパール救援基金の一部や高山植物の保全活動にと些少ですが、寄付もさせて頂く。帰りに慰霊碑に立ち寄り、お彼岸に併せて平成23年6月に幽ノ沢で亡くなった柴崎君や、岩沢、水野両先輩の碑にお参りする。

その後片品村花咲温泉にある「ロッジたかやま」に入る。

9/22日 ロッジ 5:35—栗原川林道入口 6:00—7:15 不動沢駐車場 7:40—11:10 不動沢ノコル—12:10 皇海山頂上 12:30—13:40 不動沢ノコル 13:50—14:50 不動沢駐車場 15:15—栗林林道経由 17:00 望郷の湯 18:20—館林市小熊家に投宿



ロッジを早立ちし追貝口から栗原川林道に入る。この林道は路面はかなり整備されているが距離も長く車の擦れ違いにも苦勞するような一車線で所々舗装されているが神経を使う。

1時間20分ほど走って駐

車場に着くが休みともあって駐車場はほぼ満車状態であった。

登山口から沢沿いの林道を進み 2.3 分で沢沿いの登山道に入

る。不動沢を 3、4 回渡渉しながら高度を上げる。沢沿いの道はサワグルミ、ダケカンバ樹林帯の中を進む。石が山積する登山道の中をテープや標識に導かれ高度を上げる。

途中二股の処で下を見ながら歩いていて分岐を見過ごしけもの道に入ってしまった。



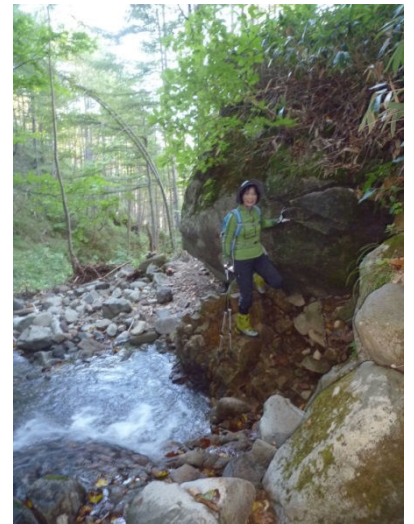
「素掘りトンネル」

踏跡らしき道を辿って視界のある地点で上部を見ると不動沢ノコルが遥か右上方に見える。

このまま、突き上げて行けば皇海山の稜線上に登れるとは思ったが勾配も立ってきて、連れ合いもいることから無理せず、下の沢をめが

けて疎林の中を下り熊笹を下ってゆくと正規の登山道に降り立つことが出来た。山は甘く見てはいけなと反省しきりである。

二股から上部の急な沢を上り詰めて行くと不動沢のコルに飛び出した。コルからは急峻な鋸山が見



て取れる。やはり修験道の山でもあり、厳しさも伺い知ることが出来る。

【沢沿いのへつり】

コルから 1 時間程で皇海山の頂上へ。頂上は、樹林の中にあり、視界は利かず、木間越しに奥白根山の山々であろうか見える。 昼食を摂って登ってきた道を不動沢ノコルへと戻る、コル直下は急坂で道もえぐれロープなども張ってある。二股に降りるとなだらかな道を降りて行く。

しばしのどかな沢沿いの道をせせらぎの音を聞きながらのんびり登山口に下ってゆく。 まだ紅葉には早かったが一部の木々は赤く染まり始めていた。



【コルから見る鋸山】



「不動沢豊富な水」



「不動沢ノコル」



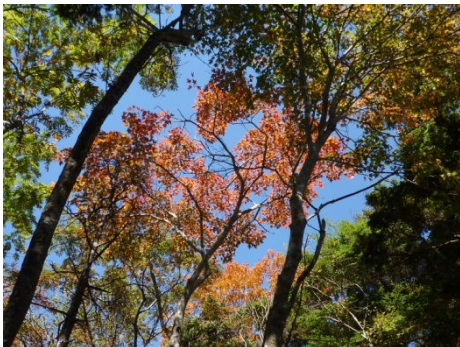
「頂上にて」



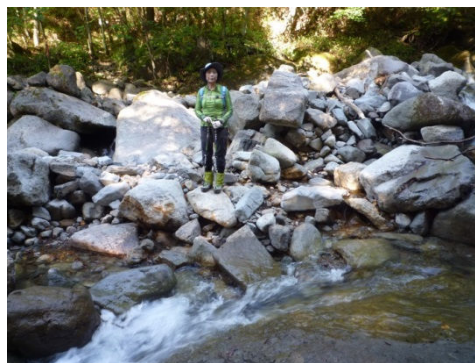
「天空に向かって立つ青銅の剣」



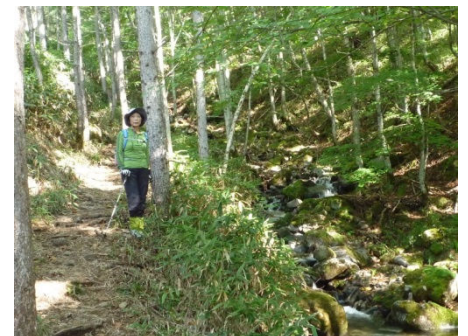
「頂上にて」



「染まり始めた木々」



「不動沢の渡渉点」



「こぼれ陽の中の沢沿いの道」